

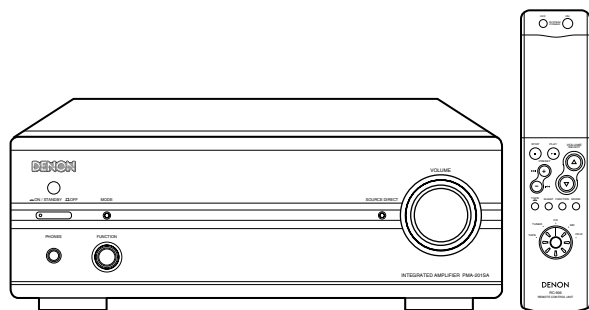
DENON

取扱説明書

PMA-201SA

PRE-MAIN AMPLIFIER

プリメインアンプ



目次

はじめに	1 使用上のご注意	2~5
	2 取り扱い上のご注意	6
	3 本機の特長	7
	4 付属品について	7
接続	5 接続のしかた	8~10
	6 各部の名前とはたらき	11~13
準備	7 システムリモコンについて	14、15
	8 操作のしかた	
操作	(1) 再生のしかた	16
	(2) 各モードの設定のしかた	17、18
	(3) 録音のしかた	19
	9 システム機能について	20
その他	10 保証とサービスについて	20
	11 故障かな?と思ったら	21
	12 主な仕様	22

安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

1 使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告

安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。

お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。



電源プラグを
コンセントから抜け

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

火災・感電の原因となります。



使用上のご注意（つづき）

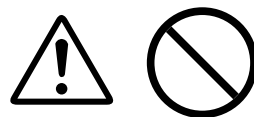
警告 つづき

安全上お守りいただきたいこと

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



キャビネット（天板・裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。

また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアドライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。



雷が鳴り出したら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。



水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



使用上のご注意（つづき）

⚠ 注意

安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



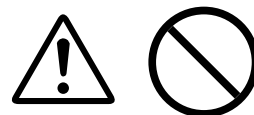
濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。



電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ

湿気やほこりの多いところ

直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど高温になる場所



不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



使用上のご注意（つづき）

注意 つづき

取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

あお向けや横倒し、逆さまにする

押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する



この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



重いものをのせない

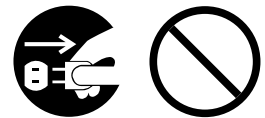
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線・機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。
感電の原因となることがあります。



5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうとより効果的です。

なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。



2 取り扱い上のご注意

結露現象について

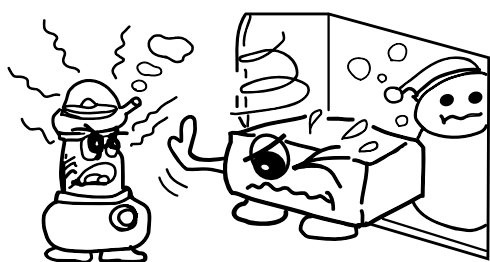
結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

結露が起こる条件は

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。

結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。



結露後の処置は

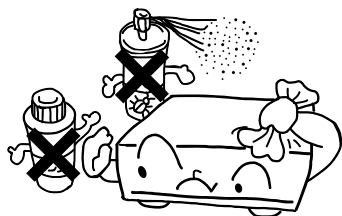
結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1～2時間で使用できるようになります。

お手入れについて

キャビネットや操作パネル部分の汚れをふきとるときは、柔らかい布を使用して軽くふきとってください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。



ヘッドホン使用の際のご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

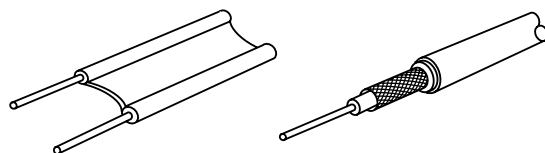
設置の際のご注意

本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合は次の点に注意してください。

本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などのステレオ音声コードから離して設置してください。

特に室内アンテナや300 フィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75 同軸ケーブルのご使用をおすすめします。



300 フィーダー線

75 同軸ケーブル

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。

使わないときは

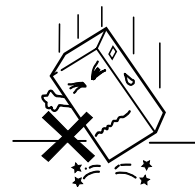
ふだん使わないとき

電源を切っておいてください。
外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



移動させるとき

衝撃を与えないでください。



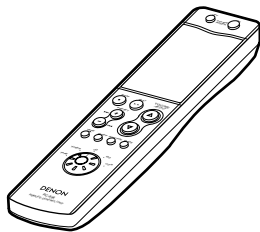
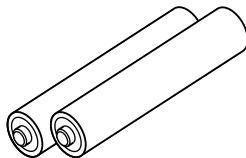
必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。

3 本機の特長

1. “繊細さ”と“力強さ”を表現するHC-TRによる出力回路搭載
DENONの最高級モノラルパワーアンプPOA-S1に採用のUHC-MOSと同一思想によるHC-TR（High Current-トランジスター）を使用したシングル・プッシュプル回路により、安定した大電流供給と優れた小信号リニアリティを両立。これにより、“繊細さ”と“力強さ”の高次元での両立を実現しています。
2. HC-TRによる出力回路の表現力をバックアップする強力な電源回路
ハイスピード整流ダイオード、大型高音質ブロックコンデンサーにより構成された強力な電源回路が、HC-トランジスターによる出力回路の魅力を十分に発揮させます。
3. S.L.D.C.の採用
小信号回路、大信号回路、マイコン回路などを理想的に分離させたS.L.D.C.（Signal Level Divided Construction）を採用しています。
4. 音質の高品位化を図るソースダイレクト機能
BASS、TREBLE、LOUDNESS、BALANCEのコントロール回路をバイパスすることで、簡潔な信号経路を実現。音の純度保持に貢献するソースダイレクト機能を搭載しています。
5. システムリモコン付属
PRESTA-201SAシリーズのCDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットデッキ、チューナーをコントロールできるシステムリモコンを付属しています。（システム接続した場合に限ります。）
6. プリアウト端子
アンプ内蔵サブウーハーなどの接続により、システムアップ可能なプリアウト端子を装備。
7. 低待機電力
電源スタンバイ時の待機電力を1W以下に低減しました。

4 付属品について

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用前にご確認ください。

システムリモコン（RC-906）1個 	単4形乾電池 	2本	取扱説明書（本書）	1冊
			製品のご相談と修理・サービス一覧表	1枚
			保証書 （梱包箱に貼り付けられています）	

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット



音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。

特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

接続のしかた(つづき)

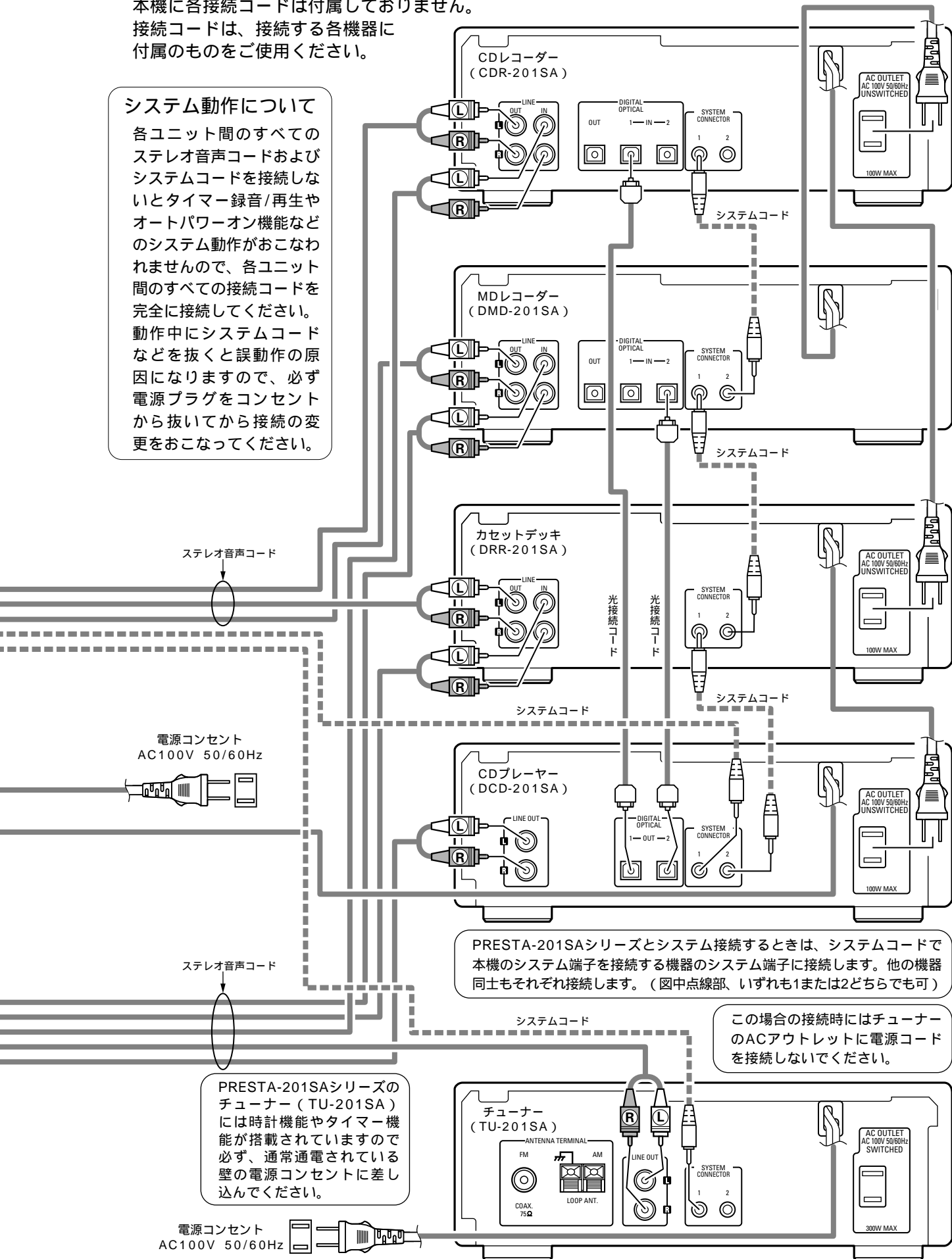
PRESTA-201SAシリーズと接続する場合は、下図の通りシステム接続をおこなってください。

本機に各接続コードは付属しておりません。

接続コードは、接続する各機器に付属のものをご使用ください。

システム動作について

各ユニット間のすべてのステレオ音声コードおよびシステムコードを接続しないとタイマー録音/再生やオートパワーオン機能などのシステム動作がおこなわれませんので、各ユニット間のすべての接続コードを完全に接続してください。動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから接続の変更をおこなってください。



PRESTA-201SAシリーズとシステム接続するときは、システムコードで本機のシステム端子を接続する機器のシステム端子に接続します。他の機器同士もそれぞれ接続します。(図中点線部、いずれも1または2どちらでも可)

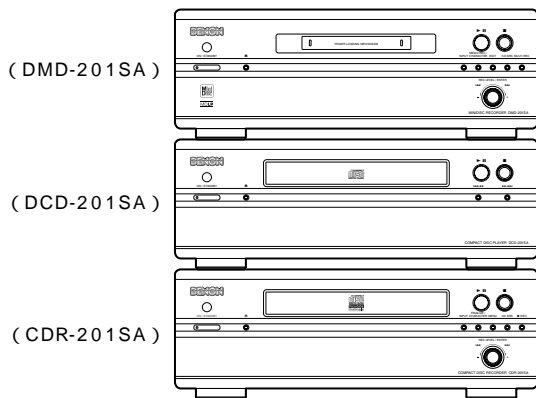
この場合の接続時にはチューナーのACアウトレットに電源コードを接続しないでください。

PRESTA-201SAシリーズのチューナー(TU-201SA)には時計機能やタイマー機能が搭載されていますので必ず、通常通電されている壁の電源コンセントに差し込んでください。

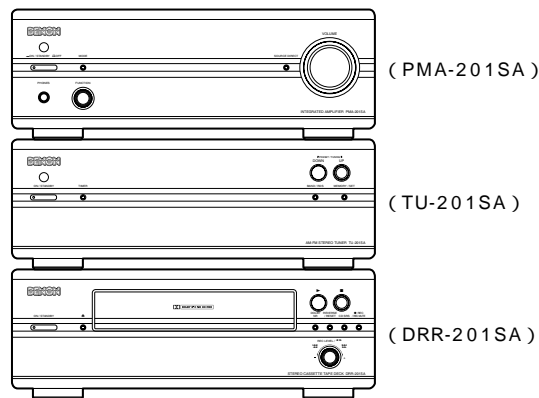
接続のしかた(つづき)

推奨システムセッティングについて

PRESTA-201SAシリーズでのシステムセッティングは性能・安定性を確保するため下記のようにおこなってください。



ご注意
プリメインアンプ (PMA-201SA) の上に他の機器を直接重ねないでください。放熱のため、通風孔をふさがらないよう10cm以上離してください。
安全性確保のため、機器の積み重ねは3段までにしてください。



スピーカーシステムの接続

スピーカーのインピーダンスについて

スピーカーシステムAまたはBの一方を使用する場合は、インピーダンスが4~16のスピーカーを使用してください。

スピーカーシステムAとBを同時に使用する場合は、インピーダンスが8~16のスピーカーを使用してください。インピーダンスが8~16

以外のスピーカーを使用すると故障の原因になりますので、ご注意ください。

上記のインピーダンス以外のスピーカーを使用した場合に、保護回路が動作する場合があります。

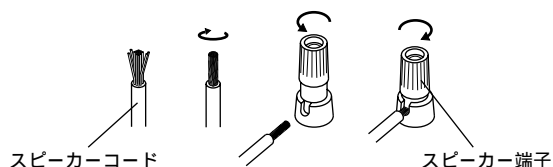
スピーカーコードの接続

コードの端の被覆をむきます。

芯線をよじります。

スピーカー端子を左に回してゆるめます。

コードの芯線部分を全部差し込み、右に回して端子を締めます。



保護回路について

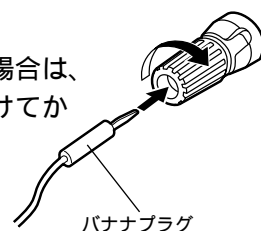
本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に、大電流が流れたりした場合や周囲の温度異常などが発生した場合にスピーカーを保護するためのものです。

保護回路が動作するとスタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが橙色の早い点滅になります。このような場合は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。

配線や本機の周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、本機の電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

バナナプラグの接続

バナナプラグを使用する場合は、右に回して端子を締め付けてから挿入してください。



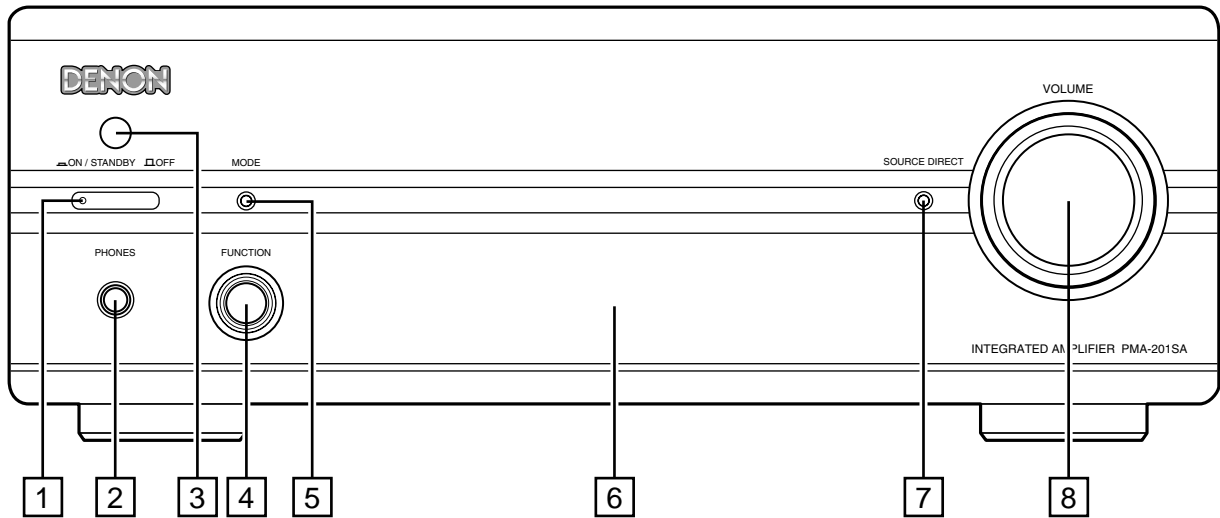
スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性(⊕と⊕、⊖と⊖)を接続してください。極性を間違えて接続すると中央の音が抜けたようになり、楽器の定位がはっきりせずステレオの方向感が損なわれます。

接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。また、スピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

ご注意
通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

6 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル



- 1** 電源ボタン (ON / OFF)
 押して『ON ()』にすると電源が入り、インジケータおよびディスプレイが点灯します。電源投入後、数秒間はミュート状態になります。もう一度押して『OFF ()』にすると電源が切れます。インジケータの色は状態によって次のように変わります。

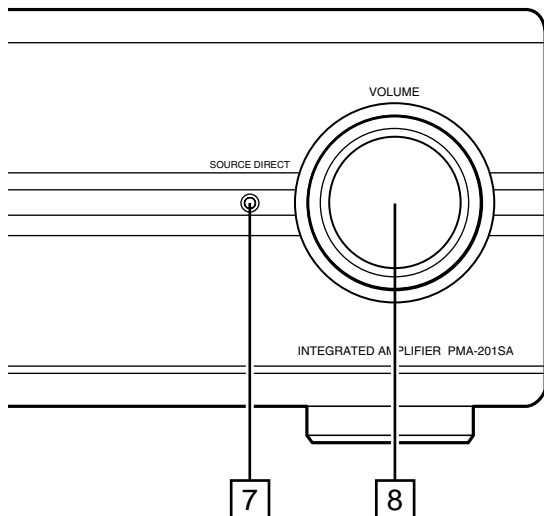
本体の電源ボタン	本体の状態	インジケータの状態
ON ()	動作中	緑色点灯
	ミュート中	緑色点滅
	スタンバイ中	赤色点灯
OFF ()		消灯

本体の電源ボタンを『ON ()』または、リモコンによるスタンバイを解除にすると数秒間のミュート状態があります。このミュート状態のときには緑色点滅をおこない、本機が動作中になると緑色に点灯します。
 橙色点滅 (早い点滅) :
 本機の保護回路が動作している状態。
 このときは電源ボタンを『OFF ()』にして、インジケータが消灯した後でリアパネルの入出力端子を確認してください。特にスピーカーコードのショートがないかを確認、正しく接続した後で電源を入れてください。(電源OFF後10秒以上経ってからもう一度電源を入れてください。
 PRESTA-201SAシリーズとシステム接続をしているときはシステムの電源ボタンとしてはたらき、本機の電源がONになると同時に、接続しているシステムユニットの電源もONになります。
 スタンバイ状態でも本機は通電状態 (省電力) にあります。

- 2** ヘッドホンジャック (PHONES)
 ヘッドホン (別売り) でお楽しみいただくときに使用します。
 ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンプラグを差し込みます。ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカー出力とプリアウト端子の信号は自動的に切れます。
- 3** リモコン受光部
 付属のリモコン (RC-906) をこの受光部に向けて操作してください。
- 4** ファンクションつまみ (FUNCTION)
 入力ファンクションを切り替えます。
 また、モードボタンで選択した各モードの設定をするときに使用します。
 (16 ~ 19ページ参照)
- 5** モードボタン (MODE)
 低音、高音、バランスの設定をおこなうときに押します。(17、18ページ参照)
 ラウドネスのON/OFFを設定するときに押します。(17ページ参照)
 スピーカーシステムの設定をおこなうときに押します。(18ページ参照)
 録音出力ファンクションを設定するときに押します。(19ページ参照)
- 6** ディスプレイ
 13ページを参照してください。

(次ページにつづきます)

各部の名前とはたらき (つづき)



7 ソースダイレクトボタン

(SOURCE DIRECT)

押して『ON』にすると信号は音質調整（高音、低音、バランス、LOUDNESS）回路を通らず、直接ボリューム回路に入力されるので、より高音質再生がおこなえます。

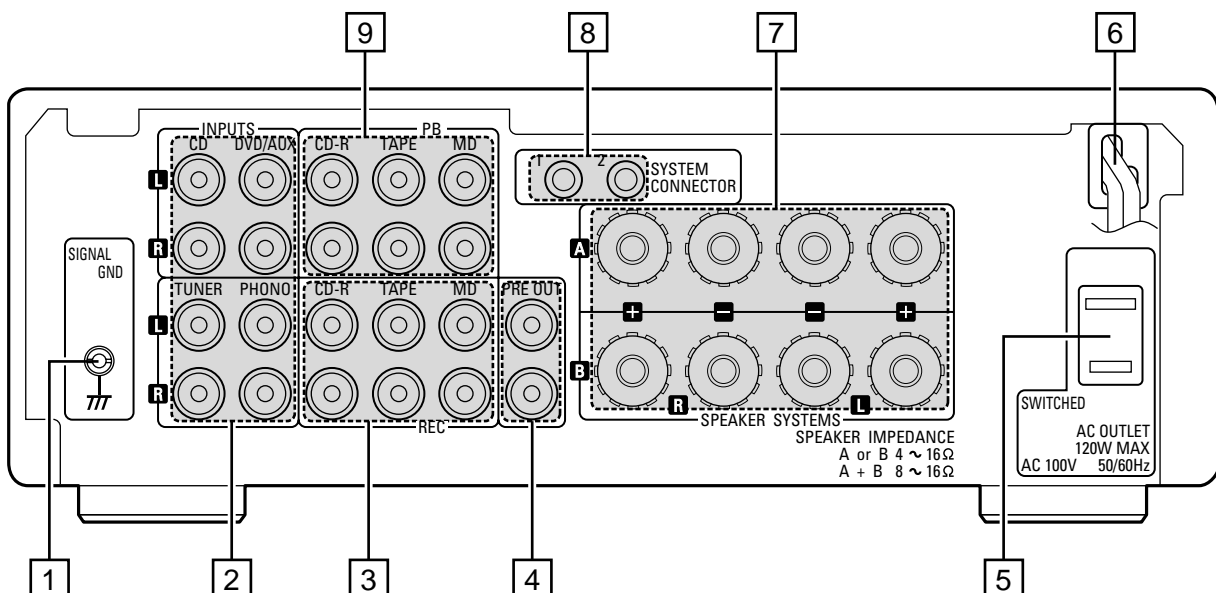
もう一度押して『OFF』にすると信号は音質調整回路を通りますので、お好みの音質に低音、高音、バランス、LOUDNESSが調節できます。

8 音量調節つまみ (VOLUME)

音量を調節するときに使用します。

つまみを右 (Ω) に回すと音が大きくなり、左 (∞) に回すと小さくなります。

(2) リアパネル



1 アース端子 (SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続する端子です。

ご注意

この端子はレコードプレーヤーなどを接続した場合に、雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

2 入力端子 (INPUTS)

CD : CDプレーヤーを接続します。

DVD/AUX :

DVD、ビデオデッキなどの外部機器を接続します。

TUNER : チューナーを接続します。

PHONO :

レコードプレーヤーを接続します。
レコードプレーヤーのカートリッジは『MM』を使用してください。

3 出力端子 (REC)

録音用の出力端子です。

CD-R :

CDレコーダーの入力端子 (LINE IN) に接続します。

TAPE :

カセットデッキの入力端子 (LINE IN) に接続します。

MD :

MDレコーダーの入力端子 (LINE IN) に接続します。

4 プリアウト端子 (PRE OUT)

パワーアンプやパワーアンプ内蔵型のサブウーハーなどを接続する時に使用します。

パワーアンプやサブウーハーなどの入力端子に接続します。

ヘッドホン使用時には出力されません。



各部の名前とはたらき (つづき)

⑤ ACアウトレット (AC OUTLET)

他のオーディオ機器の電源プラグを差し込みます。

オーディオ機器専用です。

PRESTA-201SAシリーズとシステム接続する際は、CDプレーヤー (DCD-201SA)、カセットデッキ (DRR-201SA)、MDレコーダー (DMD-201SA)、またはCDレコーダー (CDR-201SA) のいずれかの機器の電源プラグを接続してください。

電源ボタン ( ON/STANDBY  OFF) と連動し、電源をON/OFFします。

ご注意

接続する機器の合計消費電力は120Wまでです。それ以上の機器は接続しないでください。

⑥ 電源コード

壁の電源コンセントなどに差し込んでください。

⑦ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEMS)

スピーカーを接続します。(8、10ページ参照)

⑧ システム端子

(SYSTEM CONNECTOR 1, 2)

PRESTA-201SAシリーズとシステム接続するときに、他機器のシステム端子と接続します。(接続の際は、他の機器に付属のシステムコードを使用してください。)

⑨ 再生端子 (PB)

CD-R :

CDレコーダーの出力端子 (LINE OUT) に接続します。

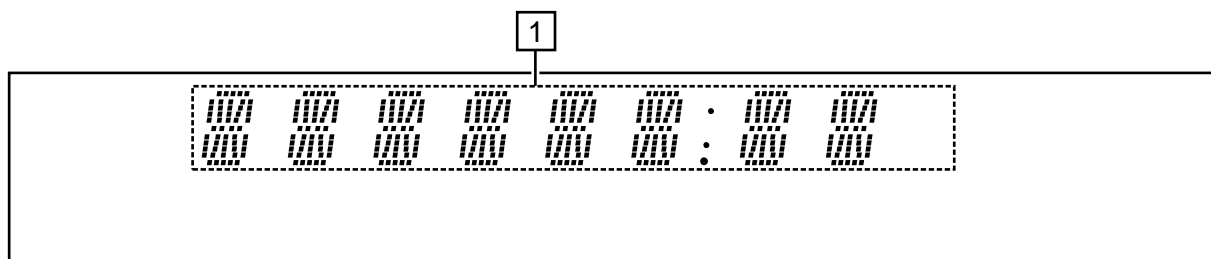
TAPE :

カセットデッキの出力端子 (LINE OUT) に接続します。

MD :

MDレコーダーの出力端子 (LINE OUT) に接続します。

(3) ディスプレイ



① メイン表示部

各種ファンクション (機能)、入力プログラムソースなどが表示されます。

通常動作時は入力プログラムソースを表示します。

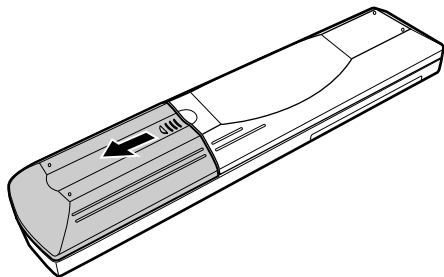
モードボタンを押すと、各機能を示す表示に切り替わります。

7 システムリモコンについて

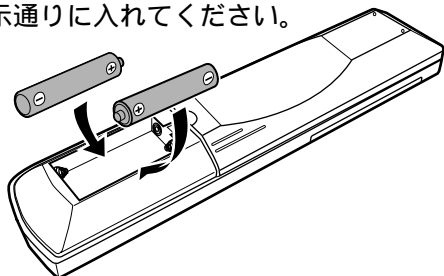
付属のシステムリモコン (RC-906) は、PRESTA-201SAシリーズとシステム接続している各々のシステムユニットの主な操作をおこなうことができます。それ以外の機器を接続してもこのリモコンによる操作はできません。なお、システムリモコンでは操作できない機能もありますので、その場合は各ユニットに付属のリモコンを使用してください。

(1) 乾電池の入れかた

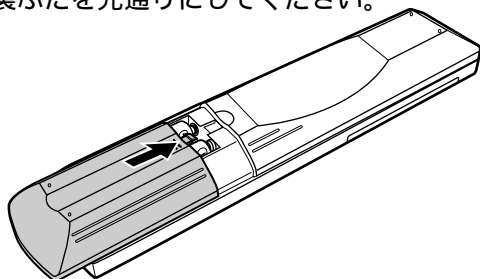
リモコンの裏ぶたを外してください。



単4形乾電池 (2本) をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



裏ぶたを元通りにしてください。



乾電池についてのご注意

リモコンには単4形乾電池をご使用ください。リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)

乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。

破損・液漏れの恐れがありますので、

新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。

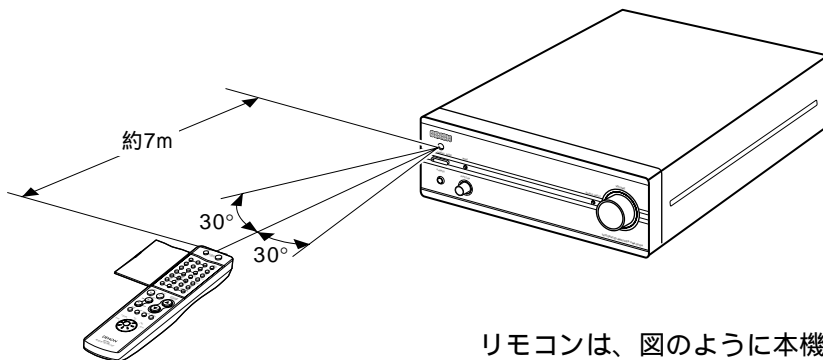
乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。

リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

乾電池を交換するときは予め交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

(2) リモコンの使いかた



ご注意

リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

リモコンは、図のように本機のリモコン受光部に向けて使用してください。(システム接続のときは、すべての機器のリモコン信号は本機のリモコン受光部で受信します。)

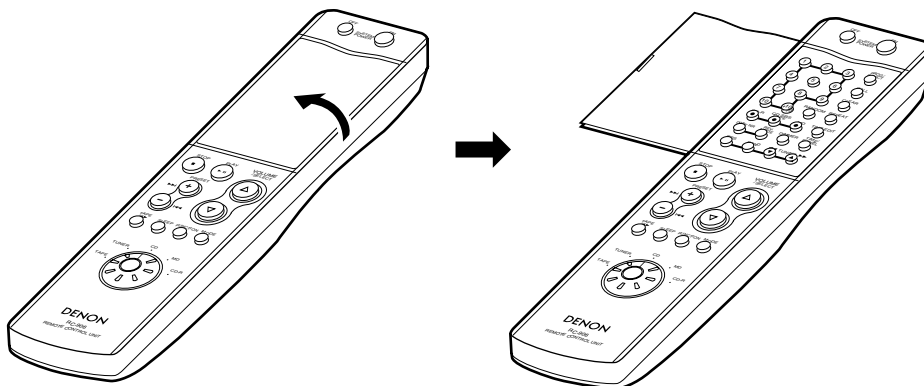
直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。

リモコン受光部を基準にして左右約30°までの範囲で操作できます。

システムリモコンについて(つづき)

(3) リモコンボタンの名前とはたらき

リモコンカバーの開けかた



特に説明のないボタンは、本体と同じはたらきをします。

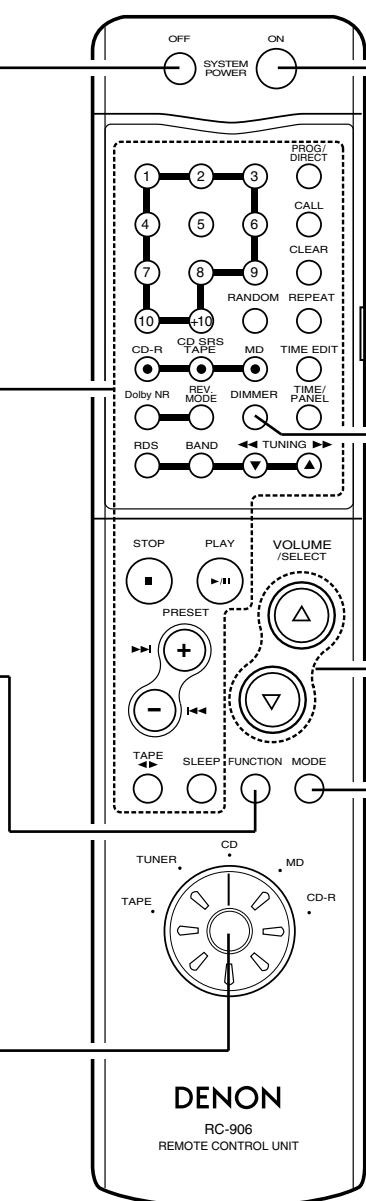
**電源スタンバイボタン
(SYSTEM POWER STANDBY)**
本機の電源をスタンバイ状態にするときに押します。
(PRESTA-201SAシリーズとシステム接続されているときは、システム全体の電源がスタンバイ状態になります。)

**PRESTA-201SAシリーズ
各機器操作ブロック**
PRESTA-201SAシリーズをシステム接続したとき、接続された各機器の操作に使用します。操作方法は各機器の取扱説明書をご覧ください。

**ファンクションボタン
(FUNCTION)**
再生するファンクションソースを選択するときに押します。このボタンを押すたびに、ファンクションが下記のように切り替わります。

CD → TUNER → DVD/AUX
MD ← TAPE ← CD-R ← PHONO ←

**リモコンファンクション
切り替えスイッチ**
本リモコンで操作するファンクションを選びます。操作方はPRESTA-201SAシリーズ各機器の取扱説明書をご覧ください。



**電源オンボタン
(SYSTEM POWER ON)**
本機がスタンバイ状態のときに押すと、本機の電源がONになります。
(PRESTA-201SAシリーズとシステム接続されているときは、システム全体の電源がONになります。)

**ディマーボタン
(DIMMER)**
押すたびにディスプレイの明るさが暗くなっていきます。
(4段階)
部屋の明るさに合わせて、ディスプレイの明るさを調節してください。

**ボリューム/セレクトボタン
(VOLUME/SELECT)**
△を押すと音量が上がり、▽を押すと音量が下がります。各種モード設定をおこなうときに使用します。

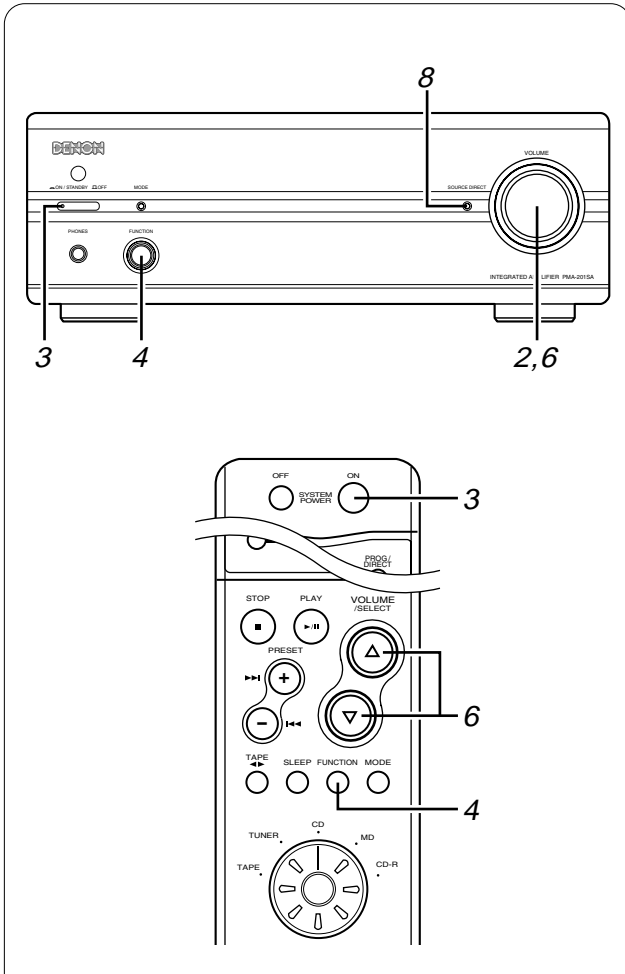
モードボタン (MODE)

[システムリモコン対応機種]

プリメインアンプ	PMA-201SA
チューナー	TU-201SA
CDプレーヤー	DCD-201SA
カセットデッキ	DRR-201SA
MDレコーダー	DMD-201SA
CDレコーダー	CDR-201SA

8 操作のしかた

(1) 再生のしかた

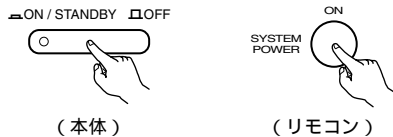


1 接続に間違いがないことを確認してください。

2 音量調節つまみを左(Ω)に回して、音量を最小にします。

(本体)

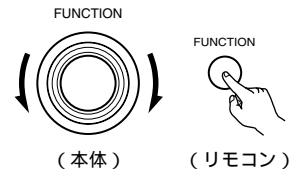
電源を入れます。
インジケーターが緑色に点滅した後、緑色に点灯します。



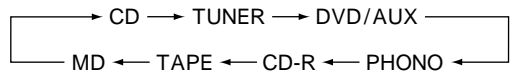
3 電源ON/STANDBYとファンクションメモリーについて
スタンバイ状態からリモコンを使用して、本機の電源をONにしたときのファンクションは前回スタンバイにしたとき選択していたファンクションになります。
(ラストファンクション機能)
静電気などのショックにより、メモリーが消去された場合は本機の電源をONにしたときのファンクションは『CD』になります。

本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのファンクションボタンを押して再生したいファンクションソースを選択します。

ファンクションは下記のように切り替わります。



つまみを左(Ω)に回したときは逆の順番になります。



CD :
CD端子に接続したCDプレーヤーを再生するときに選択します。

TUNER :
TUNER端子に接続したチューナーを再生するときに選択します。

DVD/AUX :
DVD/AUX端子に接続した機器を再生するときに選択します。

PHONO :
PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを再生するときに選択します。

CD-R :
CD-R端子に接続したCDレコーダーを再生するときに選択します。

TAPE :
TAPE端子に接続したカセットデッキを再生するときに選択します。

MD :
MD端子に接続したMDレコーダーを再生するときに選択します。

4

5 選択したファンクションソースの再生をはじめます。
操作のしかたは、再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

6 音量を調節します。

(本体) (リモコン)

7 バランス、低音、高音、ラウドネスを調節します。
調節のしかたは17、18ページの「(2) 各モードの設定のしかた」を参照してください。

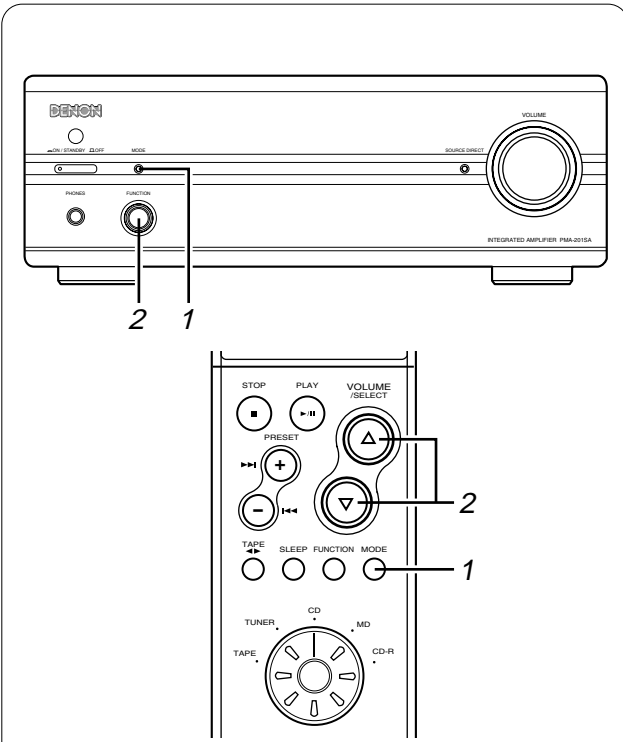
8 [ソースダイレクトにてお楽しみいただく場合]
ソースダイレクトボタンを押してONにします。

(本体)

操作のしかた (つづき)

(2) 各モードの設定のしかた

1 低音、高音の調節のしかた



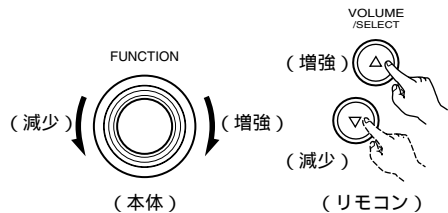
モードボタンを押して、調節したいモード { BASS (低音) または TREBLE (高音) } を表示させます。 (本体) (リモコン)

1 再生 ← REC OUT ← SPEAKER ← BALANCE ← ファンクションソース

ソースダイレクトが『ON』に設定されているときは、下記のように切り替わるので選択できません。

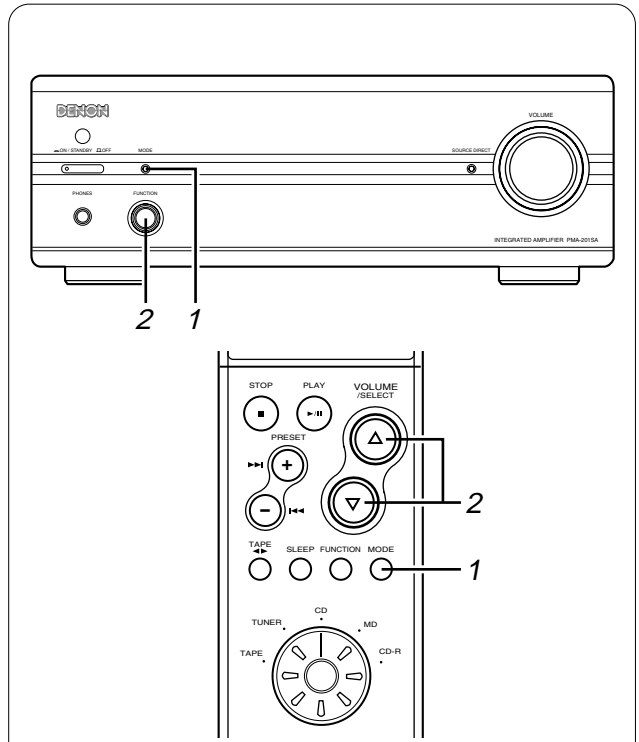
→ SPEAKER → REC OUT → 再生ファンクションソース

2 本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して調節します。



低音または高音を増強したいとき：
つまみを右 (Ω) に回すか、△ボタンを押します。
低音または高音を減少させたいとき：
つまみを左 (∩) に回すか、▽ボタンを押します。
調節範囲は -12 ~ 0 ~ +12 で、2ステップずつ調節できます。0 のときフラットになります。

2 ラウドネスの設定のしかた



1 モードボタンを押して、“LOUDNESS” を表示させます。 ボタンを押すたびに左記のように切り替わります。 ソースダイレクトが『ON』に設定されているとラウドネスは選択できません。

2 本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して『ON』または『OFF』を選択します。 ディスプレイに“ON”または“OFF”表示が点灯します。

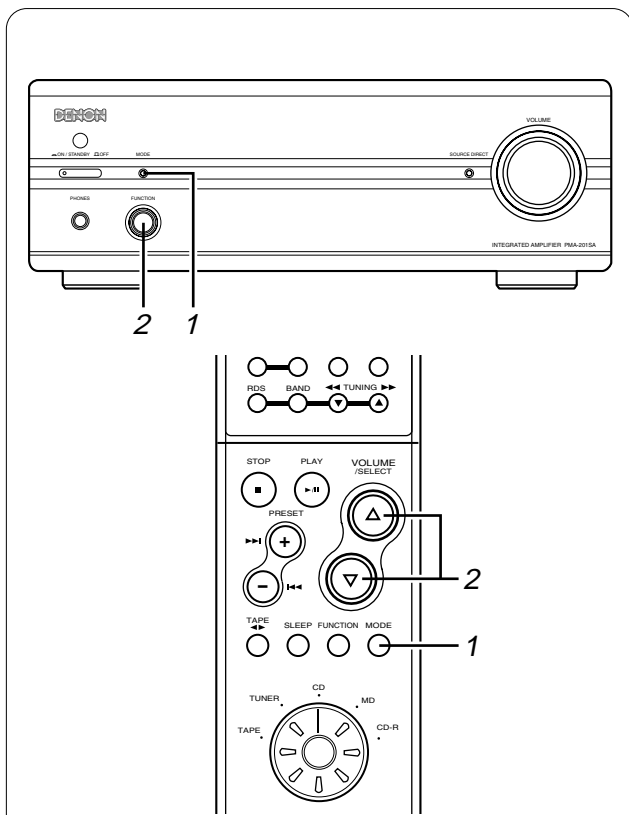
『ON』にしたいとき：
つまみを右 (Ω) に回すか、△ボタンを押します。
『OFF』にしたいとき：
つまみを左 (∩) に回すか、▽ボタンを押します。

ご注意

低音、高音、ラウドネスの合計で増強量は +12 までです。低音、高音の設定が +12 の場合にはラウドネス ON/OFF による音の変化はありません。

操作のしかた (つづき)

3 スピーカーシステムの選択のしかた



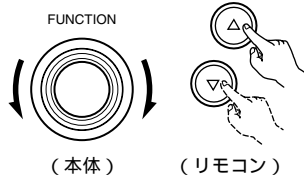
1

モードボタンを押して、“SPEAKER”を表示させます。

モードの切り替わりは (本体) (リモコン) 17ページを参照してください。

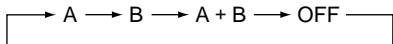
本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して使用するスピーカーシステムを選択します。

スピーカーシステムは下記のように切り替わります。



つまみを左(◁)に回したときまたは▽ボタンを押したときは逆の順番になります。

2



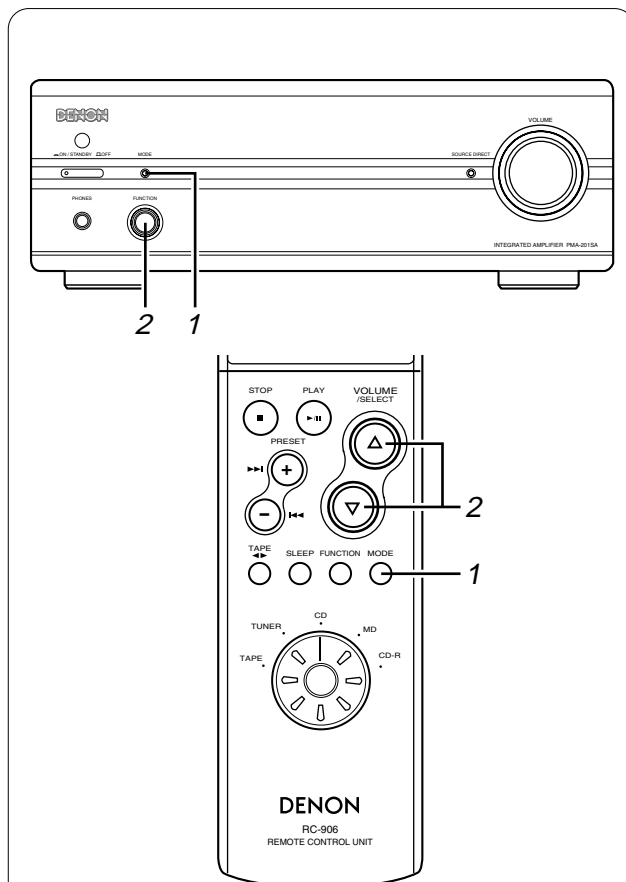
A : スピーカー出力端子Aに接続したスピーカーシステムから音が出力されます。

B : スピーカー出力端子Bに接続したスピーカーシステムから音が出力されます。

A + B : スピーカー出力端子A、Bに接続したスピーカーシステム (両方) から音が出力されます。

OFF : スピーカーから音は出力されません。

4 バランスの調節のしかた



1

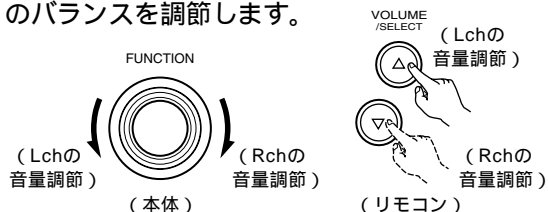
モードボタンを押して、“BALANCE”を表示させます。

モードの切り替わりは (本体) (リモコン) 17ページを参照してください。

ソースダイレクトが『ON』に設定されているとBALANCEは選択できません。

本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押してスピーカーの左右のバランスを調節します。

2



右側のスピーカーの音量が小さいとき :

つまみを右(▷)に回すか、△ボタンを押します。

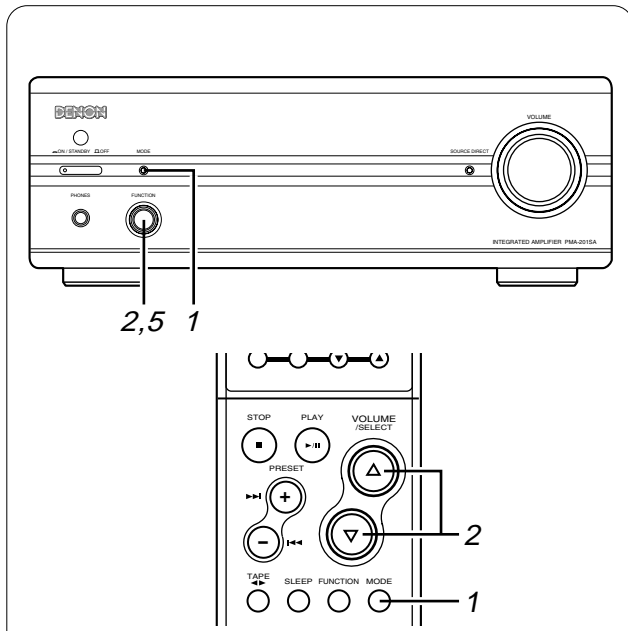
左側のスピーカーの音量が小さいとき :

つまみを左(◁)に回すか、▽ボタンを押します。

調節範囲はCENTER、+L1~+L10、+R1~+R10で、1ステップずつ調節できます。CENTERのとき左右のスピーカーの音量の差は0です。

操作のしかた(つづき)

(3) 録音のしかた



1 モードボタンを押して、“REC OUT”を表示させます。
ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

MODE MODE
(本体) (リモコン)

→ BASS → TREBLE → LOUDNESS
再生 ← REC OUT ← SPEAKER ← BALANCE ←
ファンクションソース

ソースダイレクトが『ON』に設定されているときは、下記のように切り替わります。

→ SPEAKER → REC OUT → 再生ファンクションソース

2 本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して録音したいファンクションソースを選択します。
ファンクションは下記のように切り替わります。
つまみを左(Ω)に回したときは逆の順番になります。

FUNCTION VOLUME/SELECT
(本体) (リモコン)

→ ♯CD → ♯TUNER → ♯DVD/AUX → ♯PHONO
← ♯SOURCE ← ♯MD ← ♯TAPE ← ♯CD-R ←

2 つづき

CD :
CDの音を録音するときに選択します。

TUNER :
チューナーの音を録音するときに選択します。

DVD/AUX :
DVD/AUX端子に接続した機器の音を録音するときに選択します。

PHONO :
レコードの音を録音するときに選択します。

CD-R :
CD-Rの音を録音するときに選択します。

TAPE :
TAPE端子に接続した機器の音を録音するときに選択します。

MD :
MD端子に接続した機器を録音するときに選択します。

SOURCE :
再生ファンクションで選択されたソースが出力されます。

3 カセットデッキ、MDレコーダーまたはCDレコーダーを録音状態にします。
操作のしかたは、録音する機器の取扱説明書をご覧ください。

4 選択したファンクションソースの再生をはじめます。
操作のしかたは、再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

5 本体のファンクションつまみを回して録音する音声、または録音した音声を聞くことができます。また、録音中に別のファンクションソースの音声を聞くこともできます。

FUNCTION
(本体)

音量、低音、高音、ラウドネス、バランスを調節しても録音している音には影響ありません。
録音したいファンクションソースが
『MD』のとき : 『TAPE』または『CD-R』
『TAPE』のとき : 『MD』または『CD-R』
『CD-R』のとき : 『TAPE』または『MD』
への録音になります。
電源ON時は『SOURCE』に初期設定されます。

9 システム機能について

本機をPRESTA-201SAシリーズとシステム接続をすると、便利なシステム機能が働きます。

(接続のしかたは8、9ページの「接続のしかた」を参照してください。)

各機器を操作するシステム機能の信号は、すべて本機またはレシーバー(DRA-201SA)から出力されます。

従って、システム接続するときは必ず本機またはレシーバー(DRA-201SA)を接続してください。

システム機能が働くのは、PRESTA-201SAシリーズの機器を接続したときのみです。それ以外の機器を接続してもシステム機能は働きません。

システム接続をして使用する場合、下記のようなシステム機能が働きます。

(1)本機に付属のシステムリモコン(RC-906)で各機器の主な操作をおこなうことができます。

(2)各々の機器のリモコン信号は本機のリモコン受光部で受信します。

(3)オートパワーオン機能

システム全体がスタンバイ状態のときにCDプレーヤー(DCD-201SA)、カセットデッキ(DRR-201SA)、MDレコーダー(DMD-201SA)、CDレコーダー(CDR-201SA)のプレイ/ポーズボタン(▶ ||)を押すだけでそれぞれの電源が入り、再生をおこなうことができます。

また、チューナー(TU-201SA)についてはシステムリモコンのプリセットボタン(PRESET)を押すだけでチューナーの電源が入り、ラジオ放送を聞くことができます。

(4)オートファンクション機能

CDプレーヤー(DCD-201SA)、カセットデッキ(DRR-201SA)、MDレコーダー(DMD-201SA)、CDレコーダー(CDR-201SA)のプレイ/ポーズボタン(▶ ||)を押すと本機のファンクションが切り替わり、それぞれの再生をおこなうことができます。

(5)CDシンクロ録音機能

カセットデッキ(DRR-201SA)、MDレコーダー(DMD-201SA)、CDレコーダー(CDR-201SA)のCDシンクロボタン(CD SRS)を押すだけで、CDをそれぞれの機器へ録音することができます。

(6)同期録音機能(REC OUTをSOURCEに設定しておいてください。)

カセットデッキ(DRR-201SA)、MDレコーダー(DMD-201SA)、CDレコーダー(CDR-201SA)を録音一時停止状態にして、CDプレーヤー(DCD-201SA)のプレイ/ポーズボタン(▶ ||)を押すと自動的に録音が始まります。

カセットデッキ(DRR-201SA)、MDレコーダー(DMD-201SA)、CDレコーダー(CDR-201SA)のそれぞれの機器間でも同様に録音できます。

(7)タイマー機能

チューナー(TU-201SA)のタイマー機能を使用して、設定された時刻に再生やラジオ放送の留守録(AIR CHECK)をおこなうことができます。また、スリープタイマー機能もおこなうことができます。

それぞれの操作については、各機器の取扱説明書を参照してください。

10 保証とサービスについて

①この商品には保証書が添付されております。

保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

②保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。

但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますのでご注意ください。詳しくは保証書をご覧ください。

修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

③保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

④本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

⑤保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

11 故障かな？と思ったら

故障？ と思っても、もう一度確かめてみましょう

各接続は正しいですか
取扱説明書に従って正しく操作していますか
スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜き取り、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

	現象	原因	処置	関連ページ
レコード・テープ演奏・FM受信など共通して起こるとき	電源ボタン(ON/OFF)を押しても、インジケータもディスプレイも点灯せず、音も出ない。	電源コードが抜けている。	電源コードプラグの差し込みを点検してください。	8、9、13
	インジケータとディスプレイは点灯するが、音が出ない。	スピーカーコードの接続が不完全である。 入力切り替えが不適當である。 音量調節つまみ(VOLUME)が絞ってある。 入力コードの接続が不完全である。 スピーカー切り替えが不適當である。 ヘッドホンのプラグが挿入されている。	接続し直してください。 正しい位置に切り替えてください。 音量調節つまみ(VOLUME)を再調整してください。 正しく接続してください。 正しい位置に切り替えてください。 ヘッドホンのプラグを抜いてください。	10 16 16 8、9 18 11
	片側だけ音が出ない。	スピーカーコードの接続が不完全である。 入力コードの接続が不完全である。 左右のバランスがずれている。	接続し直してください。 接続し直してください。 バランス調節をしてください。	10 8、9 18
	ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。	左右スピーカー、または左右入力コードの接続が逆になっている。	左右の接続を確かめてください。	8、9
レコード演奏のとき	レコード演奏のときに、“ブーン”という音が出る。	プレーヤーのアース線がはずれている。 PHONO端子の接続が不完全である。 プレーヤーの近くにテレビなどの電気機器があるため、影響を受けている。	接続し直してください。 接続し直してください。 設置位置を変えてみてください。	8、9 8、9
	レコード演奏のときに音量調節つまみ(VOLUME)を大きくしていくと“ワーン”という音が出る。 (ハウリング現象)	プレーヤーとスピーカーシステムとの距離が近すぎる。 床が柔らかく振動しやすい。	できるだけ離して使うようにしてください。 床を伝わってくるスピーカーの振動をクッションで吸収するようにして使用してください。プレーヤーにインシュレーターが付いていないときには、市販のオーディオインシュレーターを使ってください。	
	音がビリつく。 (ひずんで聞こえる)	針圧が適當でない。 針先にゴミがついている。 カートリッジの不良。	正しい針圧に調整してください。 針先をチェックしてください。 カートリッジを交換してください。	
共通	リモコンを操作しても正常に動作しない。	乾電池が消耗している。 リモコンの距離が離れ過ぎている。 本体とリモコンの間に障害物がある。 リモコンの操作方向の角度が正面から30°を超えている。 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	新しい乾電池と交換してください。 近づいて操作してください。 障害物を取り除いてください。 本体の正面方向からリモコンを操作してください。 乾電池を正しくセットしてください。	14 14 14 14 14

12 主な仕様

パワーアンプ部 定格出力	両チャンネル駆動 (CD SP OUT) 50W + 50W (負荷8、20Hz ~ 20kHz)
実用最大出力	100W + 100W (負荷4、EIAJ)
全高周波ひずみ率	0.01% (定格出力 - 3dB時) 負荷8、1kHz
出力端子	スピーカー/A or B : 負荷4 ~ 16、A + B : 負荷8 ~ 16 ヘッドホン/ステレオヘッドホン適合
プリアンプ部 イコライザーアンプ出力 (REC OUT端子)	定格出力 150mV
入力感度/入力インピーダンス	PHONO (MM) : 2.5mV/47k CD、TUNER、DVD/AUX : 100mV/16k TAPE、MD、CD-R
RIAA 偏差	PHONO : 20Hz ~ 20kHz ± 0.5dB (MM)
総合特性 SN比 (Aネットワーク)	PHONO (MM) : 83dB (入力端子短絡、入力信号5mV時) CD、TUNER、DVD/AUX : 104dB (入力端子短絡時) TAPE、MD、CD-R
トーン・コントロール (ラウドネスOFF時)	BASS (低域) : 100Hz ± 8dB TREBLE (高域) : 10kHz ± 8dB
ラウドネス 周波数特性	: 100Hz + 6dB、10kHz + 4dB 入力CD、ソースダイレクトON : 5Hz ~ 100kHz (0、- 3dB)
電源コンセント	SWITCHED (連動) 1個 容量120W
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	135W (電気用品安全法による) (スタンバイ時 : 1W以下)
最大外形寸法	250 (幅) × 90 (高さ) × 371 (奥行き) mm (含フット、ツマミ、端子)
質量	6.1kg
リモコン リモコン方式	RC-906 赤外線パルス式
電源	DC3V 単4形乾電池2本使用
外形寸法	48 (幅) × 210 (高さ) × 29 (奥行き) mm
質量	120g (乾電池含む)

(EIAJ) : (社) 電子情報技術産業協会 (略称JEITA) が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

本機は国内仕様です。

必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



MEMO

株式会社 **デノン** コンシューマー マーケティング

本 社 〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター TEL : 03 - 6731 - 5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間 9 : 30 ~ 12 : 00、12 : 45 ~ 17 : 30

(弊社休日および祝日を除く、月 ~ 金曜日)

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先 (サービスセンター) については、
次の URL でもご確認できます。

<http://denon.jp/info/info02.html>

後日のために記入しておいてください。

購 入 店 名 : 電 話 (- -)

ご購入年月日 : 年 月 日